

「手術不能な急性胆嚢炎に対して EUS - GBD を行った患者の長期成績」へのご協力をお願い

代表者

所属：岡山大学病院 消化器内科 職名：助教 氏名：松本 和幸

共同担当者

所属：岡山赤十字病院 消化器内科 職名：胆膵内科副部長 氏名：秋元 悠

所属：岩国医療センター 消化器内科 職名：医員 氏名：上田 英次郎

所属：津山中央病院 内科 職名：医長 氏名：森本 光作

1. 目的

急性胆嚢炎の標準的治療は胆のう摘出術であるが、全身状態などにより早期手術が困難な症例では、超音波内視鏡下胆嚢ドレナージ（endoscopic ultrasound-guided gallbladder drainage : EUS-GBD）などの胆嚢ドレナージが行われる（1,2）。胆嚢ドレナージ後に胆嚢摘出術が行われない場合の再発率は22～47%と報告されており（3）、ドレナージ後に全身状態が落ち着けば手術が推奨されている。しかし、ドレナージを行っても年齢や基礎疾患などにより手術不能な症例が存在する。既報では手術不能な胆石性胆嚢炎に対して EUS-GBD が行われた症例の胆嚢炎再発率は3.8%（4）とされており、EUS-GBD は胆嚢炎再発を回避する有用な選択肢と思われる。EUS-GBD 後は基本的に胆嚢内にステントを長期間留置して経過をみるが、定期的なステント交換の必要性などについては議論の余地がある。また、手術不能な急性胆嚢炎患者の中には悪性疾患によるものが多く含まれており、それらに対する EUS-GBD 後の長期成績を検討した報告はない。今回、手術不能な急性胆嚢炎（悪性疾患によるものも含む）に対して EUS-GBD を行った患者の長期成績を評価することを目的とした。

2. 対象と方法

岡山大学主管・多機関共同・既存情報を用いる観察研究。

2010年1月1日から2023年10月31日の間に岡山大学病院および共同研究機関において、EUS-GBDを受けた手術不能な急性胆嚢炎患者。全体で120人（内訳：岡山大学病院 25人、岡山赤十字病院 40人、岩国医療センター 35人、津山中央病院 20人）を対象とする。

3. 研究期間

委員会承認後 ～ 2025年12月31日

4. 調査票等

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。あなたの個人情報には削除後匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には最新の注意を払います。

- ・年齢、性別、家族歴、既往歴、嗜好、診察初見など
- ・検査データ、画像データ、手術記録、病理記録など
- ・治療内容、有害事象など

5. 情報の保護

調査により得られたデータを取り扱う際は、被検者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

個人情報 は完全に秘匿されておりますのでご安心下さい。もし患者様自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象としますので下記までご連絡下さい。

津山中央病院 病院長 林 同輔

連絡先：電話 0868-21-8111（担当：内科 森本 光作）